

2019 年度決算報告書



株式会社エフエム東京

事業の経過及び成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、米中貿易摩擦等の煽りを受けた製造業を中心とした減速感や、特に下期以降は、相次ぐ自然災害、消費増税の影響による小売業の低迷等が見られ、さらに第4四半期には、新型コロナウイルスによる「戦後最大の経済危機」に陥りました。国内 GDP は2四半期連続の大幅マイナスとなり、アメリカ政府機関は2020年4～6月期 GDP について、マイナス39%という衝撃的な予測を発表しています。

このような状況下、ラジオ広告市場は全体としては減少傾向となったものの、当社グループにおいては、主力である放送収入のうちスポットが年度を通じて前期を大きく上回る水準で推移しました。グループ全体の連結売上高は177億9百万円(前期比2.7%減)となり、営業利益は12億2千5百万円(前期比50.8%増)、経常利益は15億7千3百万円(前期は15億5千1百万円の損失)となりました。当連結会計年度において撤退を決めたi-dio (V-Low マルチメディア放送) 事業に関わる投資損失など特別損失24億9百万円を計上した結果、親会社株主に帰属する当期純損失は8億2千2百万円(前期は83億8千2百万円の損失)となりました。

当社単体の業績については、売上高が127億9千8百万円(前期比1.4%増)、営業利益が7億3千2百万円(前期比22.6%増)、経常利益は9億3百万円(前期比3.0%増)、i-dio 事業に関わる投資損失など特別損失を27億5千9百万円計上した結果、当期純損失は17億3千2百万円(前期は91億5千5百万円の損失)となりました。

連結事業セグメント別の営業状況は以下の通りです。

<放送事業活動>

i-dio (V-Low マルチメディア放送) 事業は、事業環境の激変等により放送開始以来当初の計画を大幅に下回る収益しか計上できず、当連結会計年度前半において全体計画について抜本的な見直しが必要となりました。当社の投資能力に鑑みた結果、2019年9月18日開催の取締役会で事業からの撤退を決議せざるを得ず、10月8日に撤退方針を公表いたしました。その後、事業の主体である株式会社ジャパンマルチメディア放送は他社との連携による事業の継続を目指しましたがこれも断念せざるを得ず、11月22日の同社取締役会で事業撤退を決議し、12月25日には2020年3月末での一般放送の終了を発表しました。

当社は総務省より、i-dio 事業の利用者対応については、関係者と密接に連携し、自治体を含めたサービスの利用者が不利益を被ることがないように、丁寧な周知、説明を行うことなどを求める行政指導を受け、真摯に対応しております。具体的には、自治体向け防災情報サービス V-ALERT については一般放送終了後もサービスを継続した上で、できるだけ早い時期での代替サービスの導入について各自治体と協議を進めております。

当社事業の中心となる FM 放送事業については、当期後半より、従来はメインターゲットを M1F1 区分としておりましたが、超高度情報化時代、ライフスタイル多様化時代にお

いては実年齢と感性・感覚、価値観が相関しない環境変化を踏まえ、曜日時間帯別に男女 18 歳～49 歳までのレンジでメインターゲット層を設定する方針に変更しました。

4 月には、平日朝のネットワーク番組『ONE MORNING』（月～金曜 6：00～9：00）をスタート。人気声優の鈴木健一氏を起用し、音声メディア独自の視点でニュースを伝えつつ、ラジオらしい生活者に寄り添った番組内容を目指しています。

10 月改編は、「上質を味わう。本物を楽しむ。」をテーマに、FM ラジオの原点とも言える音楽、カルチャー、エンターテインメント、ジャーナルにおいて、「生活者の心を豊かにする」ステーションブランドの強化を主眼に置きました。

その象徴番組のひとつとして、平日午後に、元 SMAP 稲垣吾郎氏、ハマ・オカモト氏（OKAMOTO'S）が出演する新番組『THE TRAD』（月～木曜 15:00～16:50）をスタートしました。世代を問わず音楽的・文化的志向性が高い層をターゲットに、「今日、あえて聴いてほしい上質な音楽」を選曲する音楽番組を目指しています。当期ではありませんが、2020 年 4 月改編では、福山雅治氏の『ジェットストリーム』、ネットサーフィンでニュースを見る時代にあえて事象を掘り下げる調査報道をテーマとする『TOKYO SLOW NEWS』、秋元康氏監修で毎回大物ゲスト 2 人が深夜の架空のバーで顔を合わせ、筋書きなしの生放送トークを展開する『TOKYO SPEAKEASY』など、音声放送でしか表現できない番組の魅力を追求しております。

2018 年 8 月よりスタートした、世界的作家・村上春樹氏がディスクジョッキーをつとめる特別番組『村上 RADIO』は、当期も新作を 8 回放送しました。6 月 26 日（水）には、同氏の作家活動 40 周年を記念した公開収録イベント『HARUKI MURAKAMI 40th Anniversary 村上 JAM ～村上 RADIO SPECIAL NIGHT～』を TOKYO FM ホールにて開催、ほとんど公の場に登場しない村上春樹氏自身が観客の前に姿を現す、過去に類を見ないイベントとなりました。ジャズピアニスト・大西順子氏、北村英治氏、渡辺貞夫クインテットなど豪華メンバーを迎えた一夜限りのスペシャルライブを 2 週にわたり当社をはじめとする JFN 全国 38 局ネットで放送し、一般紙、テレビ、ネットメディアなどで大きな話題となりました。

未来を担う大学生たちにエールを送る企画『FM Festival 未来授業～明日の日本人たちへ～』は、2019 年が人類の月面到達 50 周年であることにちなみ、「非常に困難ながら、実現すれば世界が変わるような壮大な挑戦」＝「令和時代のムーンショット」をテーマに、知のフロントランナーの対談形式で 5 つのセッションを実施しました。ノーベル賞学者・山中伸弥×芥川賞作家・川上未映子、宇宙生物学研究者・藤島皓介×脳科学者・茂木健一郎、社会学者・上野千鶴子×モテクリエイター・ゆうこすらによる対談の模様を、11 月 4 日（月・祝）に 3 時間の特別番組として放送しました。

10 代向けワイド番組『SCHOOL OF LOCK!』（月～金 22:00～23:55）では、番組 15 周年を記念した配信型イベント『キズナ感謝祭 supported by 親子のワイモバ学割』を、3 月 22 日（日）に延べ 7 時間にわたり実施しました。このイベントは、当初幕張メッセにて開

催予定でしたが、新型コロナウイルスの感染防止対策のため、動画配信へ形を変えて実施したものです。『SCHOOL OF LOCK!』に出演中のアーティストが集結した豪華ラインナップのパフォーマンスを、YouTube と LINE MUSIC でライブ配信。多くのリスナーが生配信を楽しみ、LINE MUSIC 公式 LINE アカウントの生配信視聴者累計 100 万人超、YouTube のライブ配信同時接続 1.9 万人、Twitter トrend 世界 2 位到達（日本国内 1 位）という記録的な数字を達成しました。

首都圏聴取率調査においては、当期上半期は課題を残す結果となりましたが、下半期は従来メインターゲット M1F1 区分において首位を獲得するなど、回復基調にあります。

<企画・制作事業活動>

当連結会計年度は、放送番組と連動した自社制作企画や音楽フェスティバル、ミュージカルの興行出資等、多彩な企画を用意して臨みました。

7 月は、ブロードウェイの歌姫ケリー・オハラと渡辺謙が共演を果たしたミュージカル『王様と私』を招聘し、大ヒットを記録いたしました。

8 月には、当社主催として、日本最大級の音楽フェスティバル『ROCK IN JAPAN FESTIVAL 2019』を 8 月 3, 4, 10, 11, 12 日の 5 日間にわたり、国営ひたち海浜公園（茨城県ひたちなか市）にて開催し、約 34 万人を動員しました。

同じく 8 月には、5 回目の開催となる 10 代限定の音楽フェスティバル『未確認フェスティバル 2019』を、8 月 25 日（日）にスタジオコースト（新木場）で開催しました。本イベントは JFN 全国 38 局で放送中の 10 代向け番組『SCHOOL OF LOCK!』と連動し、会場には延べ 4,200 人のリスナーが来場し大盛況となりました。

しかしながら新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言を受け、3 月に予定していたイベントは中止・延期の措置をとることとなり、特に幕張メッセでの『SCHOOL OF LOCK!』15 周年イベント中止は収支面にインパクトを与えました。

<インフォメーションプロバイダー事業活動>

連結子会社ジグノシステムジャパン株式会社では、主力事業であるモバイル端末向けコンテンツ配信事業におけるキャラクターライセンスビジネスや、関連する物販ビジネスが好調で、システム開発ビジネスも比較的順調に推移しましたが、前連結会計年度にあった i-dio 事業関連のシステム受注に替わる売上を確保することができず減収となりました。

<賃貸事業活動>

オフィスビル「JFN センター」等による賃貸事業を運営いたしました。

<その他の事業活動>

デジタル・オーディオ・アド事業は、独自サービス構築のため前連結会計年度より開発を

続けてきたアプリ「WIZ RADIO」について、不具合の解消やユーザーインターフェースの改善が遅れた結果、ユーザー拡大が進まず、追加で必要となる開発費の上限も見通せない状況となりました。一方、新たな事業方針としてオーディオコンテンツ事業に取り組むこととし、ラジオ業界共通のサイマル配信アプリですでに300万の月間聴取者を抱えるradikoと完全連携することが明らかに得策と判断し、整合性の面でも存在理由を見い出せない「WIZ RADIO」アプリ開発は断念いたしました。

TOKYO FM 少年合唱団は、当期は読売日本交響楽団マーラー『交響曲第3番』（東京芸術劇場コンサートホール）に出演した他、プッチーニ歌劇『ラ・ボエーム』（新国立劇場）全5回公演に出演するなど幅広く活動し、洗練されたボーイ・ソプラノとしての高評価を得ました。

その他、直営2店舗によるレストラン事業を運営いたしました。

前期比較損益計算書（連結）

2019年4月1日～2020年3月31日

（単位：千円）

勘定科目	2020年3月期 (2019.4.1～ 2020.3.31)	2019年3月期 (2018.4.1～ 2019.3.31)	前期比
売上高	17,709,516	18,193,688	97.3%
売上原価	11,182,340	11,698,824	95.6%
売上総利益	6,527,175	6,494,863	100.5%
販売費及び一般管理費	5,301,981	5,682,487	93.3%
（内のれん償却額）	—	—	—
営業利益	1,225,194	812,375	150.8%
（売上高営業利益率）	6.9%	4.5%	
営業外収益	390,699	154,091	253.5%
営業外費用	42,377	2,517,469	1.7%
経常利益	1,573,516	△ 1,551,001	—
（売上高経常利益率）	8.9%	—	
特別利益	180,080	190,235	94.7%
特別損失	2,409,197	6,733,399	35.8%
税金等調整前当期純利益	△ 655,600	△ 8,094,165	—
法人税、住民税及び事業税	355,056	322,251	110.2%
法人税等調整額	△ 220,294	△ 34,390	—
当期純利益	△ 790,362	△ 8,382,027	—
非支配株主に帰属する 当期純利益	32,366	323	9995.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	△ 822,728	△ 8,382,351	—

（注）金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

前期比較損益計算書（当社単体）

2019年4月1日～2020年3月31日

(単位:千円)

勘定科目	2020年3月期 (2019.4.1～2020.3.31)	2019年3月期 (2018.4.1～2019.3.31)	前期比
売上高	12,798,033	12,622,268	101.4%
売上原価	8,063,817	7,964,070	101.3%
売上総利益	4,734,216	4,658,197	101.6%
販売費及び一般管理費	4,002,074	4,061,232	98.5%
営業利益	732,142	596,965	122.6%
(売上高営業利益率)	5.7%	4.7%	
営業外収益	211,989	330,467	64.1%
営業外費用	40,583	49,888	81.3%
経常利益	903,548	877,545	103.0%
(売上高経常利益率)	7.1%	7.0%	
特別利益	174,421	222,501	78.4%
特別損失	2,759,455	10,106,054	27.3%
税引前当期純利益	△ 1,681,485	△ 9,006,008	—
法人税、住民税及び事業税	313,516	202,699	154.7%
法人税等調整額	△ 262,079	△ 53,075	—
当期純利益	△ 1,732,922	△ 9,155,631	—

(注) 金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

前期比較売上高内訳書(当社単体)

2019年4月1日～2020年3月31日

(単位:千円)

	2020年3月期 (2019.4.1～2020.3.31)	2019年3月期 (2018.4.1～2019.3.31)	前期比
売上高	12,798,033	12,622,268	101.4%
放送事業収入	11,731,060	11,761,964	99.7%
放送収入	7,820,724	7,616,353	102.7%
タイム放送料	5,336,501	5,385,321	99.1%
スポット放送料	2,484,223	2,231,032	111.3%
制作収入	2,686,486	2,742,429	98.0%
その他	1,223,848	1,403,181	87.2%
企画事業収入	726,155	509,284	142.6%
賃貸事業収入	236,376	238,582	99.1%
その他事業収入	104,441	112,437	92.9%

(注)金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

55 期(通期)広告会社取り扱い順位

<総合順位>

55 期	54 期	広告会社
1	1	博報堂DYメディアパートナーズ
2	2	電通
3	3	ADKマーケティング・ソリューションズ
4	4	全農ビジネスサポート
5	5	大日本印刷
6	-	オレンジ・アンド・パートナーズ
7	6	東急エージェンシー
8	7	ユータムエンタープライズ
9	11	読売エージェンシー
10	10	放送文化事業

<タイム>

55 期	54 期	広告会社
1	2	博報堂DYメディアパートナーズ
2	1	電通
3	3	ADKマーケティング・ソリューションズ
4	4	全農ビジネスサポート
5	5	大日本印刷
6	-	オレンジ・アンド・パートナーズ
7	6	東急エージェンシー
8	10	読売エージェンシー
9	14	テレビ朝日サービス
10	13	ビデオプロモーション

<スポット>

55 期	54 期	広告会社
1	1	博報堂DYメディアパートナーズ
2	2	電通
3	3	ユータムエンタープライズ
4	5	東急エージェンシー
5	7	エスプロックス
6	6	放送文化事業
7	4	ADKマーケティング・ソリューションズ
8	9	オリコム
9	-	全農ビジネスサポート
10	-	読売連合広告社

2020年3月期 決算短信

2020年5月29日

会社名 株式会社 エフエム東京

URL <http://www.tfm.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 黒坂 修

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 総務局長

(氏名) 一瀬 勝

TEL (03)3221-0080

配当支払開始予定日 -

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期の連結業績 (2019年4月1日～2020年3月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期	17,709	△2.7	1,225	50.8	1,573	-	△822	-
2019年3月期	18,193	△1.8	812	△44.9	△1,551	-	△8,382	-

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2020年3月期	△918 28	- -	△4.0	4.8	6.9
2019年3月期	△9,355 90	- -	△39.3	△4.3	4.5

(参考) 持分法投資損益 2020年3月期 221 百万円 2019年3月期 △2,461 百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期	29,156	20,064	67.3	21,904 34
2019年3月期	35,939	21,725	59.3	23,806 77

(参考) 自己資本 2020年3月期 19,625百万円 2019年3月期 21,329百万円

2. 配当の状況

	年間配当金			配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産 配当率(連結)
	中間期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2020年3月期	- -	- -	- -	-	-	-
2019年3月期	60 00	- -	60 00	54	-	0.3

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 有
 新規3社 (株)ジャパンマルチメディア放送、(株)VIP、東京マルチメディア放送(株)
 除外1社

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- | | |
|----------------------|---|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | 無 |
| ② ①以外の会計方針の変更 | 無 |
| ③ 会計上の見積りの変更 | 無 |
| ④ 修正再表示 | 無 |

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期	900,000株	2019年3月期	900,000株
② 期末自己株式数	2020年3月期	4,057株	2019年3月期	4,057株
③ 期中平均株式数	2020年3月期	895,943株	2019年3月期	895,943株

(参考) 個別業績の概要

1. 2020年3月期の個別業績（2019年4月1日～2020年3月31日）

(1) 個別経営成績

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期	12,798	1.4	732	22.6	903	3.0	△1,732	—
2019年3月期	12,622	△4.7	596	△33.6	877	△26.3	△9,155	—

	1株当たり当期純利益		潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	
	円	銭	円	銭
2020年3月期	△1,925	47	—	—
2019年3月期	△10,172	92	—	—

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%		円	銭
2020年3月期	28,195		18,944		67.2		21,049	79
2019年3月期	34,048		21,521		63.2		23,913	25

(参考) 自己資本 2020年3月期 18,944百万円 2019年3月期 21,521百万円

※ 監査手続の実施状況に関する表示

この決算短信の開示時点において、会社法に基づく連結計算書類及び計算書類等の監査手続は終了し、適正である旨の監査報告書を受領しております。